

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570907840		
法人名	医療法人恵愛会		
事業所名	グループホーム仁愛		
所在地	秋田県鹿角市花輪字六月田78-5		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、要介護度1から要介護度5のかたに入居していただいています。急遽の受診もありますが、敷地内に母体病院があり、24時間医療体制が整っています。ご家族様、入居者様に安心していただけるように、個々に応じた支援に職員は努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で交流行事を中止していますが、家族、地域との連携を大切にした運営を続けてきています。関わりのあった方々には折に触れて声をかけていただき、コロナで停滞していた地域交流や外出支援に力を入れていきたいと今後の活動を検討しているところです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各棟の玄関やホールに掲げ、管理者と職員が共有し、意識しながら日々の実践につなげるようにしている。	理念は全職員に浸透しており、日々の支援においてその実現に向けて努力しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策継続中につき、交流してませんが、地域住民との交流の大切さを考えています。感染対策解除になったらすぐ交流出来るようになります。	地域との繋がりが強く、コロナ発生前は地域の方が運営推進会議やホームの行事等に率先して取り組んでくれました。今の状況下でも声をかけてくれることは多く、終息後は早々に再開したいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染対策継続中につき、交流してませんが感染対策解除になったら交流出来るようになります。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策中ですが、5月から短時間で会議が開始しました。ホーム内の生活状況を知っていただき、意見交換が出来る様になってます。事業所としての取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、支援を得る機会にしたいと思います。	短時間の開催となっているため、ホームの取り組み報告が主ですが、地域情報を得ることもあり、サービスの向上に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き情報交換、意見をいただき連携を深めるように努めています。認定調査時の機会に入居者の相談や、不安なことなど相談したり意見を頂いています。	介護支援専門員がオンライン会議に参加している他、認定調査員との会話で情報収集しています。必要に応じて相談する等して協力関係が築けるように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	三ヶ月に一回ホーム内研修会を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。命にかかわる保護等についても話あっている。玄関の施錠についても職員は認識し、安全を確保している。	適正化委員会、研修を行うことにより、身体拘束、虐待をしないケアに取り組んでいます。日常業務において気になる事案が発生した場合は、資料をもって説明する等してその都度職員の理解に繋げています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している入居者様はいませんが、職員が市の研修会に出席している。資料を利用しホーム内で研修会をしています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を提示し、説明しています。納得して頂き契約しています。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ご家族様から意見、要望、苦情などいつでも受付し、対応しています。意見を前向きに活かす体制を組織として、運営会議でサービスの質の確保について議題にしています。	面会時、電話連絡の際に要望を聞くようにしています。苦情等はありませんが、今後は意見の引き出し方に工夫することを検討しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員の意見や提案を聞き、改善に向け取り組んでいる。改善に向け職員育成等では病院、施設会議でも協力を得ている。働く意欲、職員の質の確保にも努めています。	円滑な支援に繋げるため、電動ベッドの導入希望、設備備品の不具合等、さまざまな意見、提案が職員から出されています。職員の意見は毎月の運営会議で法人に伝えられています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン会議が多く参加出来ていない。事業所としてサービスの向上につながるため取り組んでいきたいと思ひます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の気持ちを受け止めることに努めています。ご本人の声に耳を傾けたりしながら、関係性を築く様に努めています。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の立場に立って、話をしっかり聞き受け止めながら、関係性を築くように努めています。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし、支え合う関係を築く事が重要と思ひ、生活の(暮らし方)意向を知る様に努めています。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご本人とご家族の支援者であり、両者の関係を踏まえつつ、良い関係を築いて行けるための支援者に努めています。月1回のお便りで状況をお知らせしています。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	感染対策中にてご家族だけの面会になっていますが、関係が途切れない様に支援したいと思ひます。	家族以外の人との関りが希薄になってきていることありますが、感染状況に応じて面会の仕方を変えながら、家族との関わりが途切れないように努めています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が共に助け合い支え合って、生活していくことの大切さを理解しています。入居者同士の共通点を見つけ、声を掛け合い支え合い、共に暮らしを楽しめるように支援しています。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のための退去が多くあるため、ご家族様との情報交換を継続しています。体調が良くなり再度入居される方もおります。再入居希望して下さる方もおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族との話し合いをもち希望を聞く様に努めています。職員間で情報共有をし、一人ひとりの立場を尊重出来る環境作りに努めています。常にご本人の視点に立って意見交換してます。	普段の様子や会話から意向を把握するようにしています。週に1度カンファレンスの時間を設け、職員で共有しながら利用者へのより良い支援に繋げています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での生活に近づけるようにしている。入居後もご本人の会話の中からヒントを得たり、得た情報を職員間で連携をとり馴染めるように対応しています。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	カンファレンスで、ホームで生活するための課題やケアのあり方について意見やアイデアを出し合い、話し合った結果をもとに介護支援専門員が作成している。	本人本位の介護計画となるように職員が意見を出し、話し合っ作成しています。家族の意向は面会、電話で確認しています。	モニタリングを行うにあたって、日常の記録やサービス担当者会議の記録の整備を期待します。
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他に、ノートを利用し詳しい内容変化、ご家族の要望等随時記録し職員に伝わる様に努めています。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策中で中止していますが、学生、地域住民、ボランティアの受け入れを考えています。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医について聞き、ご本人、ご家族の希望の医療が受けられるように支援しています。	家族の希望を踏まえ、入居時に母体病院に変更しています。皮膚科等、標榜以外の受診には家族が対応しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤であるため、介護と連携し状況の変化を共有している。母体病院と連携が取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医師や看護師、介護職員に情報を提供し、文章で提出し早期に退院出来るように努めています。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や事業所での対応について、ご家族様と入居時に話し合いを持っています。かかりつけ医等と話し合い、意向を確認しながら職員全体で話し合い、対応方針の共有を図り支援しています。	状態に変化が見られた場合には、法人の医師が家族に説明し、意向を確認しながら母体病院への入院に繋げています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、カンファレンス、申し送りで実践訓練を行っています。慌てずに確実、適切な行動が取れるようにしています。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を計画し実施している。緊急連絡網を作成し対応出来る様に努めています。非常食や飲料水も準備しています。	避難経路が整備され、水害時には病院に避難することになっており、災害時の法人、地域の協力体制はあります。コロナ禍で避難訓練はホームの職員のみで行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり1人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を職員が具体的に確認し、徹底しています。	一人ひとりの誇りを損ねることのないよう、特に声かけには十分配慮した対応をしています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えることは、ご本人の心地良さ、落ち着き、明るさがあります。個性、希望、生活歴等に応じて個別に支援しています。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事、入居者様の嗜好にあった料理を考えてます。職員も一緒に食事し楽しい時間になるように努めています。下膳や、おぼん拭き、テーブル拭きなど出来る事を一緒に行っています。	季節の行事食を提供し、差し入れやホームの畑で育てた野菜を献立に加え、楽しく食事ができるように支援しています。調理の手伝いができる利用者はいませんが、後片付け等を手伝っていただいています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個人に合わせています。水分補給を行い、摂取量を把握し記録している。心配な時はかかりつけ医に相談しています。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや、義歯洗浄に声掛けし見守りや介助を行い、清潔の保持に努めています。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり1人の排泄パターンに合わせて、トイレで排泄出来るように誘導、介助を行っています。リハビリやパット使用を減らし、トイレで気持ち良く排泄出来るように焦らずに行っています。排泄チェック表に記入し、職員が対応出来るようにしている。	トイレでの排泄を基本に支援しています。排泄用品を使用している方はいますが、オムツの方はおらず、パターンに応じて声がけすることで失敗の軽減に繋げ、費用の削減にも取り組んでいます。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便状態を記録しています。便秘の原因を知り、1人ひとりに応じた自然排便を促すため工夫しています。担当医にも相談しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日健康状態をチェックし、羞恥心や恐怖心に配慮して、くつろいだ気分で入浴出来るように支援しています。週2回の入浴介助ですが、体調不良の時は部分浴や清拭を行っています。	週2回の入浴支援が行われ、その人のその時の状態によってはシャワー浴を行い、清潔が保てるように支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中リハビリ体操などで体を動かす生活リズムを作り、安眠に繋げています。改善が必要な方には主治医に相談し、指示をいただいております。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬処方内容が職員に分かるように、個人用ファイルに入れてます。副作用や用量について理解し変化の確認を職員間で行っています。飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っています。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしが楽しく張り合いがあるように、一人ひとりにあった役割や、楽しみごとの支援を行っています。周囲の入居者へ配慮をしながら支援しています。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染対策中で行っていませんが、散歩は一緒に行っています。ホームの行事での外出は行っています。感染対策が解除になったら、ご家族様の協力を得、ご本人の思いに添って行きたい場所への外出支援行っていきます。	ホームの企画行事としてドライブをしている他、ホームの周辺を散歩して戸外に出られるように支援しています。感染症の収束を待つて個別の希望に応えたいと考えています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様様と相談、現在はお金を持っていませんが、売店で欲しい物を買うことができるようになっていきます。管理が出来る方は支援します。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、定期的な換気等の工夫を行い、調整してる。季節ごとの花を飾ったり、絵などで安心出来る環境作りを努めています。共用の空間は、自分の力で居心地よく過ごせる場となるよう配慮しています。	訪問当日、ホールにはクリスマスツリーが、居室入り口にはリースが飾られており、季節がわかるようにその時季に合わせて装飾を変え、飾りつけは利用者が職員と一緒にしています。広い空間を活かしてソファを配置し、利用者が思い思いに利用しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ椅子を設置し一人でも、気の合う入居者同士で、のんびり過ごせる環境作りに努めています。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた自宅で使用している物、状態に合わせて生活しやすい環境にしています。安心して生活していただける様に馴染みのある物、寝具類は日常使っていた物で生活して頂いております。	家族が写真を持参して飾り、簡素な部屋が多い感じがしますが、収納スペースがあり、安全に配慮された環境がつくられています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況を把握し、安全に移動出来るように、全てにバリアフリー、手すりを設置しています。不安や混乱、失敗のない環境作りに努めています。入居者様のミスを最小限にするように話し合い工夫し、危険の防止に努めています。		